

新たな人類憲章なるものは、すでに思想ではなく、
人間性の原理である。



世界大革命、大維新の時である。この革命はフランス革命やロシア革命のような一国の革命ではない。一つの主義、思想、政策が他と交替する事ではない。革命とは元来天命を革めることである。この大革命は人類の全部がその精神活動の根拠を改める事であって、すべての人間が思惟を思惟し思想を思想する方法態度の上に人間本来の普遍共通妥当な根拠を樹立することである。この革命の原理である言霊布斗麻邇に照合する時、従来のすべての思想が自己を主張してある根拠が明白になるから、従てすべて特殊の思想はその根拠を悉く喪失する。誰かが何かの思想、主義を主張すると云う事がなくなり、他と対立、矛盾、衝突する事がなくなり、すべての思惟は人間本来の先天に則って其処から直接、順当、正系に出路して来る。

過去の夢の世の夢として跡方なく消え失せてしまふ古い思想とは現在世界の行はれている人間のすべての思想であって、革命によって新たに樹立される全世界の新しい思惟の根拠すなわち人類憲章となるものは、既にそれは思想ではなくて、それが組み合わせられて時処位に応じた種々の思想を形成し、またそのすべての思想を産み出す根拠である根源の中核の人間性の原理である。まことに日蓮が予言した通り、世界からすべての思想、主義、理論が消え失せて、ただ布斗麻邇の大法のみが人類の文明の唯一の憲章として普ねく一閻浮提、全世界に行はれる。

此の革命は精神革命であって、物的な闘争を全く用ひることなくして行はれる。その為一人の兵士の動員も、一発の弾丸の炸裂も必要としない純粹の精神革命である。その方法は一切の思惟を行い、思想を生む

淵源である人類の一切種智すなわち摩尼(麻邇)の存在と内容を全世界に公示し、これが人類のすべての哲学宗教の根底であることを確認し、この原理と人間生命活動、文明運営の憲章(鏡)として、これに則って従来の世界の思想、政策のすべてを批判して、その価値と欠陥とを同時に指摘し、その思想が存在する生命的な時処位を明らかにする事にある。此の世界のすべての思惟、思想の批判を「最後の審判」と云ふ。

日本の明治維新は来るべき世界の大革命維新の雛型であった。新しい時代を処置運営して行く上に既に役に立たなくなった対立する古い権力、根底の無い無明に過ぎない古い思想に獅噛み付いて、右往左往するだけで、時局を收拾打開する処置の出来ない今の世界のすべての権力と思惟は、すべて明治維新で革められた幕府方のものである。(つづく)